

(様式)

総合工学委員会分科会の設置について

分科会等名：総合工学委員会工学基盤における知の統合分科会

1	所属委員会名	総合工学委員会
2	委員の構成	35名以内の会員又は連携会員
3	設置目的	本分科会では、工学の基盤を「技術が生み出した科学」として位置づけ、その視点から「知の統合」を考える。 科学技術の進展に伴って工学の分野はますます細分化されつつある。一方、科学技術は前にも増して社会に浸透し人々の生活に深く根をおろしつつある。細分化は知の総量の増大に伴って必然的に生ぜざるを得ないことではあるが、細分化の進行が人間・社会の全体性と不整合に陥らないように、常にその克服を心がける必要がある。科学技術が、人間・社会で生じる問題を俯瞰的に解決するためには、細分化に拮抗する統合のベクトルを常に育てていく必要がある。 ここでは、これまで工学基盤を担ってきた計測、制御、計算科学技術、設計学、シミュレーション、システムインテグレーション、標準などの分野を中心に工学における知の統合の意義と方法を議論し、それを通して工学各分野の横断的な連携を効果的に推進するための戦略を明らかにする。知の統合は本来工学基盤のみに限定される問題ではなく、人文科学や社会科学も含めた総合的な学術の統合も視野に入れる必要がある。学術の全分野が集う学術会議の特色を生かし、人文・社会科学系の会員の協力を仰ぎ、より広い「学術の統合」「社会のための科学技術」の視点から工学基盤における知の統合の意義とその推進の道筋を明らかにする。
4	審議事項	(1) 「技術が生み出した科学」を定式化し、その特色と自然科学との方法論的な違いを検討し、科学技術全体の進展の中で位置づけを行う。 (2) 「工学基盤としての科学」が果たしてきた役割を事例研究を通して明らかにし、わが国の科学技術政策におけるその推進策を提言する。 (3) 関連する学協会と協力して、知の統合を推進することへの協力を呼びかける。
5	設置期間	期限設置 年 月 日～ 年 月 日 常設
6	備考	

